

教材活用例(2) 「待月」

〔小学校中学年 主題：身近な自然の美しさ 内容項目：3の(3)〕

(1) 開発資料の実際

ア 素材の説明

(ア) 素材の概要

〈素材—景色「待月」—について〉

「待月」は、三次市出身の奥田元宋画伯の代表作の一つである。

この作品は、辺りが次第に薄暗くなる頃、山並みから、月が今にも顔をのぞかせようとするその瞬間をとらえたものである。緑の山は、月の光を背に受けながら、川面に姿を映し、ほの白く浮かび上がるように描かれている。この作品は、昭和24年日展に出品され、特選と白寿賞を受賞している。本作品は現在、広島県立美術館で所蔵されている。

この絵のモデルとなった景色は、今も当時の面影を残し、四季折々、三次の馬洗川沿いに美しい姿を留めている。

明治45年 大正元年 (1912年)	双三郡八幡村(現・三次市吉舎町)に生まれる。
昭和5年 (1930年)	上京し、児玉希望の内弟子となる。
昭和20年	疎開のため郷里に帰る。その後昭和28年までを郷里で過ごす。
昭和24年	「待月」が日展において特選・白寿賞を受賞する。
平成15年	満月の夜に死去する。
平成18年	三次市に「奥田元宋・小由女美術館」が開館される。

画家 奥田元宋画伯の略歴



(イ) 4コマ絵

主人公が、身近な自然に感じていた思いが、絵とモデルになった景色を重ね合わせて見ること、身近な景色に対して、心情が大きく変化する場面を中心場面にして、起承転結を設定した。

	起	承	転	結
場面のイメージ絵				
絵の説明	身近な山や川に関心がもてず、紹介したい景色がなかなか見つからない主人公が、祖父にいい場所を教えてもらえることになり、期待に胸を膨らませる。	美術館で奥田元宋画伯の「待月」の絵を観て、三次の山や川の風景が美しく描かれていることに驚く。	「待月」のモデルとなった景色が今も変わらずあり、その景色を観て、身近な自然の美しさに感動する。	すぐにカメラのシャッターをおさずに見つめ続ける。

イ 資料の解説

【作成の要点】

近年、身の周りに自然が少なくなっている地域に限らず、自然豊かな地域に住みながら、自然の美しさや不可思議さに目を向ける機会が少なくなっている。身近にある美しい自然や気高い美術作品等に意識的に触れようとする態度を育て、素直に感動する心を育てるためにねらいを設定した。

中学年は、社会的活動が広がることで、自然などへの関心が広がる時期である。校区のみならず市内の自然や公共物、美術作品に関心をもたせ、美しいものや気高いものに出会い、感受性や想像する力を高めることができる考える。

主人公の心情が大きく変化した場面で、これまで意識していなかった身近な自然を美しいと思う気持ちを素直に表現できるように書く活動を取り入れた。書く活動を話し合い活動に生かし、新たに学んだこと、感じたこと、考えたことの交流を行い、自らの内面の変化を振り返ることができるようにした。

資料提示において、写真と絵を活用し、それらを並列に提示することで、主人公と同じ視線で資料に浸らせ、中学年の児童に主人公の心情の変化をより共感的に捉えることができるように工夫した。



【心に響くちょっといいはなし】

日本画家 奥田元宋画伯は、昭和19年空襲により、大作十数点を消失する。昭和20年、空襲が激しくなった東京からふるさとにもどってきた。ふるさとに帰ってきた奥田元宋画伯は、画家として活動していくことに悩んだ。その時、奥田元宋画伯の目にふるさとの自然の美しさが映る。自分の心に浮かんだ自然の景色と重なる場所を探し回り、馬洗川から望む景色を見つける。その景色をスケッチし、『待月』が生まれた。『待月』は同じようなモチーフで何枚か描かれている。それまで、主に人物画を描いていた奥田元宋画伯が、風景画家として活動を始める原点となった絵である。その奥田元宋画伯の心の景色となる場所は、現在も当時の面影を残したままの美しい姿を見せてくれている。



奥田元宋・小由女美術館



「待月」をイメージした庭

奥田元宋画伯と妻であり、人形作家の小由女先生の名前で、三次に建設された奥田元宋・小由女美術館には、「待月」にちなんで、山並みを背景に池が作られ、東の空に月を臨むことができる庭が造られている。満月の夜は、開館時間が延長され、その庭に浮かぶ満月を楽しむことができる。

ウ 資料全文

「待月」

たかしは小学4年生です。

夏休みに、先生から、

（三次の自まんでできる景色を見つけてしょうかいしよう。）という宿題が出ました。

たかしは、（三次の自まんかあ・・・鵜飼いや霧の海・・・いろいろあるけどぼくだけの自まんの景色をしょうかいしたいなあ。）と、思いました。

けれども、しょうかいしたい景色はなかなか見つからず、夏休みも後一週間となってきました。困っているたかしを見て、おじいちゃんが声をかけました。

たかしから宿題の話を聞き、

「たかしだけの自まんのけしきか・・・。三次の山や川もいいんじゃないか？」

と言うと、たかしは、言い返しました。

「そんなの三次じゃなくてもどこだってあるし、どこもみんな同じだよ。」

おじいさんは、しばらく考えていましたが、

「そうだ。いいところを教えてあげよう。」

と言いました。たかしは、大よろこびです。

「本当！やったあ！じゃあ、カメラを持って行ってぱっちり写して来よう。」

「その場所をみて、ただカメラにのこすだけじゃなあ・・・。」

おじいさんは、たかしを見て、自信ありげに笑いました。その顔を見て、たかしは、

「そんなすごい場所なの！」

と、ますます喜びました。

二人は、さっそく出発しました。おじいさんは、車を走らせながら、

「たかし、いい天気だな。ほら、川がきれいだぞ。」

と話しかけましたが、たかしは、これからどんなすごい景色がみられるのかとわくわくしていて、何も答えませんでした。

車が着いたところは、奥田元宋^{おくだげんそう}・小由女美術館^{さゆめびじゅつかん}でした。

「ねえ、美術館は、友達は何人もしょうかいするって言っていたんだよ・・・。」

たかしは、小さな声で、つぶやきました。そんなたかしにかまわず、おじいさんはどんどん美術館の中に入っていました。

たかしは、奥田元宋さんの絵をみながら、

（すごい絵だな。もしかしてすごいってこの絵のことかな？でも三次の景色じゃないよなあ。）と思いました。

絵を見終わってホールに出た時、たかしは、展示してある一枚の絵がふと目にとまりました。

「この絵、きれいだなあ。山も川もこの絵みたいだときれいだよね。」

たかしが、そう言うとき、おじいさんは、

「この絵は『待月^{たいげつ}』っていうんだ。三次の画家、奥田元宋さんが、ふるさとの自然の美しさをこの絵に描いたんだ。おじいちゃんはこの絵が大好きなんだ。」

「ふるさとして、この絵は三次のけしきなの？」
たかしは思わず、聞きました。おじいさんは、にっこり笑って、
「さあ、たかしに話した、いい場所に行こうか。」
と、言いました。

おじいさんは、たかしを車に乗せ、さっき通った川ぞいの長土手で車を止めました。
「ここが、たかしにみせたい場所だよ。」
「この川？ここは、さっき車で通った所じゃないか。」
がっかりしながら、車からおりたたかしは、はっとしました。いつも見ていたはずの川の景色が、さ
っき美術館でみた『待月』の絵と重なって見えたのです。
おじいさんは、そっと言いました。
『待月』は、この山と川をかいた絵だよ。奥田元宋さんが美しいと思ってかいた景色を60年たった
今もこんなに近くで見ることができるなんですばらしいだろう。」
山の緑。青い空。川の水は、おだやかに流れています。たかしは、空につながる山の向こうから、
今にも月が顔を出すのではないかと思いました。一枚の絵のような景色の中で水鳥だけが、音もなく
すべるように泳いでいます。
おじいさんは、たかしに言いました。
「どうだい、ここの景色は？」
「うん、山も川も・・・。」
たかしは、そう言いかけて、カメラを手に持ったまま、シャッターをおさず『待月』の景色をじっ
と見つめていました。

※ 「待月」は、広島県立美術館にて所蔵

【参考文献】

奥田元宋・小由女美術館（編・発行）「受け継がれる画家の魂 川合玉堂・児玉希望・奥田元宋」

エ 授業展開例 ー学習指導案（略案）ー

身近な自然の景色に対する主人公の気持ちの変化を中心にした展開
～ワークシートを話し合い活動に生かした指導～

（ア）主題名 身近な自然の美しさ 3－（3）

（イ）ねらい 地域の自然に関心がもてないたかしが、地元出身の画家、奥田元宋の絵『待月』の
モデルとなった景色に感動する気持ちを通して、身近な自然の美しさに目を向け、素
直に感動する心情を育てる。

（ウ）資料名 「待月」

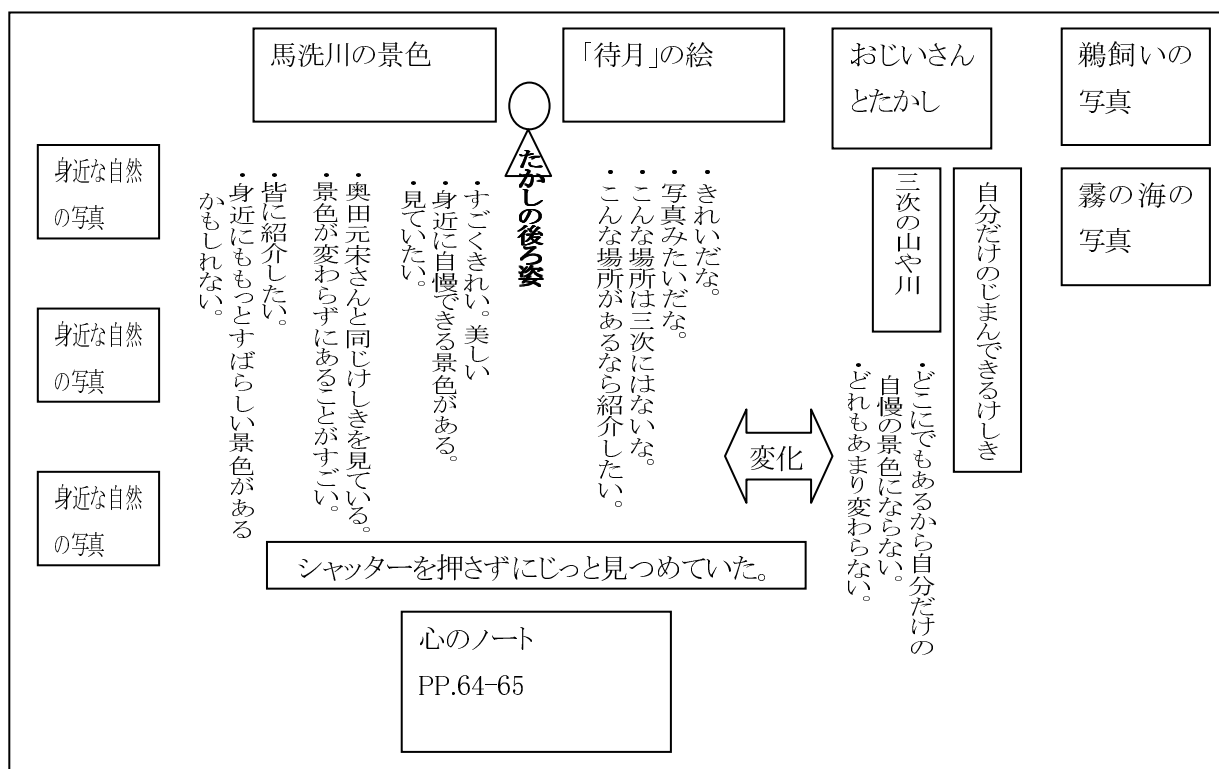
(エ) 学習指導過程

	学習活動	主な発問と児童の心の動き	留意点 (☆評価の観点)
導入	1 三次の景色を思い起こす。	○ 三次で知っている景色は、どんな景色ですか。	○ 校外活動での体験と関連付けて、三次の景色を思い起こさせる。
展開	2 資料を読んで考える。 ○ たかしは、三次の自然をどのように感じているか考える。 ○ 美術館で「待月」を観た時の気持ちを考える。 ○ カメラのシャッターを押さずに景色を見つめた理由を考える。	○ たかしは、三次の山や川をどのように思っているでしょう。 ・どこにでもあるから自分だけの自慢の景色にならない。 ・どれもあまり変わらない。 ○ たかしは、美術館で「待月」を観てどう思ったでしょう。 ・きれいだな。 ・写真みたいだな。 ・こんな場所は三次にはないな。 ・こんな場所があるなら紹介したい。 ◎ 「山も川も・・・。」と言いかけたたかしは、なぜ、カメラのシャッターを押さずに景色を見つめたのでしょうか。 ・三次にもこんなきれいな場所があったんだ。 ・いつも見ているのに気がつかなかった。 ・すぐにカメラで撮るのはもったいない。 ・ずっと見ていたい。 ・絵と重なってきれいだ。 ・月が出る頃みてみたい。	○ はじめにたかしが、三次の山や川をどう感じているかをとらえさせる。 ○ 資料提示は、「受け継がれる画家の魂 川合玉堂・児玉希望・奥田元宋」を見せながら行い、感想を自由に発表させる。 ○ 美術館で絵をみた感想を発表させる。 ○ 「待月」の絵と同じような景色を観た感想を発表させる。 ○ カメラのシャッターを押すのを忘れてみつめ続けた理由をワークシートに記入させる。 ○ ワークシートの内容を話し合い活動で高め合えるように新たな気づき等を発表しあう。 ☆ 児童相互の交流を通して、自己の道徳的なものの見方や考え方を広げたり、深めたりすることができたか。 ○ 身近な自然の写真を提示し、身の周りの自然の美しさに目を向けさせる。
終末	3 自分の生活を振り返る。	○ 身の回りにある自然で美しいと思った景色はありませんか。 ・草花や校舎の写真 ・夕焼けなどの写真	○ 「美しい自然は、あなたの心も美しくします。」の言葉をメッセージのように語り聞かせる。
終末	4 心のノートの言葉を聞く。	○ 心のノートに書かれているメッセージを読みます。	○ 「美しい自然は、あなたの心も美しくします。」の言葉をメッセージのように語り聞かせる。

(才) 資料分析表

[illegible]

(カ) 板書例



【板書の構成】

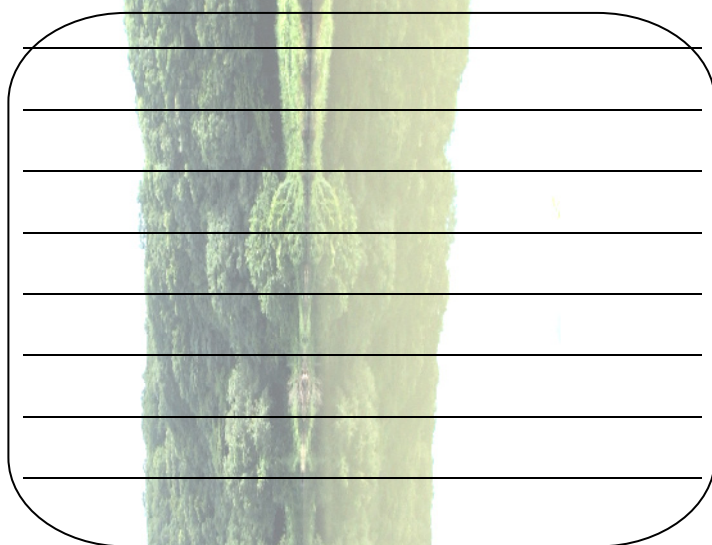
ポイントとなる場面絵や言葉の短冊を貼り、話の流れを視覚的に理解させる。また、たかしの心情が変化していることを矢印で示し、身近な自然の美しさに気付いていく心情の変化をとらえさせる。中心場面では、奥田元宋画伯の「待月」の絵とモデルとなった景色の写真を並べて掲示し、主人公と同じ目線で見ているような雰囲気をもたせる。そのため、見ている主人公の後姿を場面絵として使い、主人公の表情を自由に想像できるようにする。

中心発問の児童の発言を「感動・美しさ」や「時間や人とのつながり」、「伝えていきたいと思ったり見つけてみたいと思ったりする気持ちの広がり」の三つの観点で意図的に分類して板書する。

「待月」^{たいげつ}

名前

「山も川も・・・。」と言いかけたばかりは、なぜかスリムシャッ
ターを抱えずに景色を眺めていたのだしょっ。



めざせ

金田の耕田を耕して飯をつくらうとやうに思ひつゝ飯じやを耕
かせつちへ。



(2) 活用のポイント

本資料は、三次出身の奥田元宋画伯の作品「待月」とそのモデルとなった景色、それぞれの美しさや重ね合わせて観た美しさに感動する主人公を通して、身近な自然の美しさに気付く、素直に感動する心を育むものである。

活用のポイントとして、主人公の心情の変容を共感的にとらえさせることで、児童の心に訴え、新しい発見があるようにした。また、主人公の内的な変容を外的な言動によって描くことで、多様な考えが引き出せるように工夫した。

ア 発問の工夫

資料全体を通し、祖父の言動をキーワードとして、発問構成をしている。中心発問では主人公の心情の変容を共感的に考えさせたい。

イ 話し合いの工夫

考えを素直に表現したワークシートの内容を話し合い活動に生かす。意見の交流を通して他者の多様な考えに気付かせると共に自己の道徳的価値の自覚の深化を図りたい。

ウ 資料提示の工夫

優れた美術作品と景色の写真を対比させて提示し、資料の主人公と同じ視線で見ているかのように仕組み、共感させる。また、内省化では、身近な自然の美しさを写真で提示し、心のノート P.65 の詩を読みながら、掲示することで心に残る終末につなげていく。

(3) 授業の実際

ア 発問の工夫

1 つ目の基本発問は、資料前段で祖父が、「三次の山や川もいいんじゃないか。」と尋ねる場面を中心に、主人公が三次の身近な自然をどのようにとらえているかを考えさせた。児童は、

- ・山や川はどこも同じだと思っている。
- ・自分だけの自慢にならないから嫌だ。

など、身近な自然の美しさに気付いていない主人公の気持ちをとらえることができた。さらに祖父が、川の美しさを取り上げ、主人公に促した際の主人公の態度は、その思いの強調であり、基本発問で十分な考えが出なかった場合、補助発問として、この場面を活用できるように設定してある。

2 つ目の基本発問は、美術館で「待月」の絵を観て、主人公がどのように思うかを問うものである。児童は、この発問に

- ・きれいだなあ。
- ・写真のようだ。
- ・こんな場所が三次にもあるといいなあ。

と、いうように絵に対する素直な感想と共に三次にもこのような景色があつて欲しいと願う主人公の気持ちを感じ取ることができた。

中心発問では、資料前段の祖父の「ただ写真に撮るだけじゃあ・・・。」という言葉キーワードとして活用して、「たかしが、『山も川も・・・。』とつぶやいて、カメラのシャッターを押さずに景色を見つめたのはなぜでしょう。」とした。この発問は、主人公の外的な言動から内的な心情について、多様な考えをもつことができることをねらいとした。また、考えにくい児童に対して、「山も川も・・・。」の後、何を言おうとしたのかという補助発問をした。

この発問において、児童は、

- | | | |
|-----|---|-----------------------------------|
| 美しい | { | ・きれいだなあ。すぐに写真に撮るのはもったいない。 |
| | | ・この景色をずっと見ていたい。 |
| | | ・山と川ってこんなにきれいだったんだ。 |
| 気付き | { | ・三次にこんなきれいな場所があつたんだ。 |
| | | ・今まで気がつかなかった。どうしてこの場所を選ばなかったんだろう。 |
| | | ・絵を見て、この景色をみたら自然は美しいと感じる。 |
| 広がり | { | ・自分の身近な場所を見て、もっときれいな場所をたくさん見つけよう。 |
| | | ・このままの自然を大切にしていこう。 |

など多様な考えをもつことができた。

イ 話し合いの工夫

話し合い活動は、中心発問のワークシートの内容を生かして行った。

ワークシートには、

- ・写真に残しただけじゃあ、みんなに思いが伝わらないかもしれないな。山も川もなかったらきれいじゃないし、美しくない。やっぱり自然は大切なんだな。

・あの絵のように月がちゅっと出てくる時まで
まっていたい。

など、ただ「きれいだから。」という思いだけで
ない多様な考えを素直に表現できていた。

このワークシートを元に、自分の考えを交流す
る話し合い活動において、児童は、他者のより高い
価値や多様な考えに触れることはできた。意見を
分類したり、先の発問で発言内容の板書に書き足
したりしながら、自分では気付かなかった思いや
自分とは違う思いに気付かせて、話し合いを深めた。

その中で、「写真をとるのをがまんした。」とい
う意見の児童は、「どうして我慢したのかうまく
言えなかったけど、〇〇君の意見を聞いて、ぼく
もすぐに写真を撮るのはもったいない、しばらく
見ていたい。と思ったのだと気付きました。」と
いう意見や「私は、〇〇さんの意見を聞いて、こ
の場所のことしか考えていなかったけど、身近に
もきれいな場所があることに気が付き、もっと周り
をよく見てみようと思いました。」など自分の意
見を深めて言い換えたり、自分の意見に付け足し
たりしながら、道徳的価値の補充、深化、統合を
行うことができた。

授業後の振り返りでは、

・奥田元宋さんが描いた頃と変わってない昔か
ら伝わっていることが心に残った。
・奥田元宋さんと同じ景色をみているのはすご
いと思った。

といった時間的な流れの中でこの景色の美しさ
を感じることもできていた。

ウ 資料提示の工夫

場面絵を黒板に提示しながら、資料を読み進め
ることで、児童は、資料内容をより理解するこ
とができた。

主人公が、美術館で絵を見る場面では、奥田元
宋・小由女美術館発行の本に掲載されている美術
作品を見せながら、自由に感想を言わせた。「き
れい。」「前に見たけど、この絵はすごく大きか
ったよ。」と友達と話しながら、資料の主人公の気
持ちを共感的にとらえさせることができた。

その結果、授業後も児童は、「画家の奥田元宋
さんが描いた絵は、とてもきれいだった。」

「写真かと思うぐらいきれいだった。」「美術館で
もう一度見てみたい。」といった感想をもち、美
術作品や地域の優れた芸術家にも目を向けよう
とする意欲をもつことができた。

二つの景色を重ね合わせる場面では、児童が同
じ視線で見ているように主人公を後ろ向きで提
示した。主人公の表情から想像する固定概念にと
わられないように配慮したことで、児童の意見を
「美しい」「新たな気付き」「広がり」といった思
いに広げることができた。

(4) 各教科等（体験活動を含む）との関連

総合的な学習の時間において、1学期に、校区を
中心に地域の特徴や自然に目を向けて、それぞれの
地域のよさを見つけるなどの課題解決的な学習を
行っている。また、その中で地域の特産物であるぶ
どう作りも行っている。これらの学習で、自然に直
接触れたり、見たりする活動の充実が重要である。
また、より広い地域に目を向けさせたりするために、
長期の夏季休業において、市内の主な自然や公共物
などに出会わせるような課題を提示しておくよう
声をかけておいた。

事後活動においては、2学期に収穫を迎えるぶど
う作りの活動で、より自然の厳しさや美しさを身近
に感じることができる。このような学習の過程で、
児童が美しいと思った景色や自然物を写真に残し、
掲示していくことが効果的だと考える。

(5) 心のノートの活用

身近な自然の美しさを実感できる写真を提示し、
児童がその余韻に浸っている終末で「心のノート」
を活用した。「心のノート」PP.64-65 を視覚的に提
示しながら、書かれているメッセージを静かに読み
語り、授業を終えることで、最後の「美しい自然は、
あなたの心も美しくします。」という言葉の意味を
自然に伝えることができ、児童も素直に受け止める
ことができた。